

平成16年度
道路整備に関するアンケート調査結果について

17年6月16日

担当：開発建設部	
企画調整官	<small>いなのしげる</small> 稲野 茂
電 話	098-866-0069
道路建設課	
道路計画調整官	<small>とうやまぜんこう</small> 當山全浩
電 話	098-866-0091

1. 調査結果の概要

(1) 今後の道路整備予算について(別添資料6ページ)

ガソリン税などの道路特定財源を主たる財源としている道路整備予算に対して、一般県民の意識を調べるための設問を設けた。

具体的には、「沖縄の道路整備に対してどう思いますか。」という質問に対して、以下の4選択枝の中から1つを回答

予算を増やして積極的に進める。

現在の予算額ぐらいで同じように進める。

予算を縮小して進める。

道路整備はもう要らない。

調査の結果は、「予算増」及び、「予算現行確保」の回答率が各々約3分の1となった。一方、「道路整備不要」の回答率は5%未満と少ないが、「予算減」の回答と合計すると回答率は約3分の1となった。

すなわち、道路整備予算に関しては、増額、現行確保、減額等の回答率が各々約3分の1と拮抗した結果になったと言える。

地域別傾向を見ると、那覇や中南部といった都市部よりも、北部や先島の方が、道路整備予算の増額回答率が高い傾向が見られる。

(2) 道路整備の満足度 (別添資料19ページ)

- ・ 道路整備に関する22分野を設定し、各分野の満足度を5段階評価する設問を設けた。なお、この設問については、1年前(平成16年2月)に同様の調査を行っている。
- ・ 不満の高い分野は、第一位「道路の混雑状況」、第二位「路上工事の実施状況」であり、これは前回調査と同じである。全般的に満足度の順位は、若干の変動があるが、概ね前回調査と同傾向にある。
- ・ 満足度を数値化して比較すると、22分野の中の21分野で満足度の向上が見られたが、その変動幅は僅かである。唯一満足度が低下したのは「高速道路の整備」であるが、その低下幅は 0.02(3.43 3.41)と僅かである。
- ・ 以上から、満足度の順位は1年前の前回調査と比較して大きな変動が無いが、満足度の数値は全般的に僅かな上昇傾向が見られる。

(3) 道路整備の優先順位 (別添資料 19 ページを参照)

- ・ 道路整備に関する22分野の中から、優先順位を3つ選択する設問を設けた。なお、この設問については、1年前(平成16年2月)に同様の調査を行っている。
- ・ 優先順位の高い分野は、第一位「渋滞対策」、第二位「電線等の地中化」であり、これは前回調査と同様である。全般的に順位については、若干の変動があるが、概ね前回調査と同傾向にある。
- ・ 優先順位の回答率の数値が大きく上昇したもの
 - 「渋滞対策」 +7.2% (47.8 55.0)
 - 「狭い道路の改良等」 +3% (21.6 24.6)
- ・ 優先順位の回答率の数値が大きく下降したもの
 - 「道路周辺の緑化」 3.8% (9.9 6.1)
 - 「道路事業の県民参加」 3.7% (9.8 6.1)
- ・ 以上より、渋滞対策については、1年前と比較して満足度では変わらないが、取組推進を求める声が強くなったと言える。

(4) ETCの認知度

- ・ ETCの認知度は、85.9%と高い。(別添資料8ページ)
- ・ 本年1月より実施中のETC通勤割引制度の認知度は、22.5%と低い。特に週に6回以上高速道路を使う利用者においても、半数近く(44.5%)に認知されていない。(別添資料11ページ)
- ・ 回答者の5%はETCを設置済み、40.8%が設置に前向き。(別添資料12ページ)
- ・ ETCを設置しない理由、第一位は高速道路の利用頻度が少ないこと(60.2%)、第二位は装置の値段が高いこと(29%)(別添資料14ページ)

(別添資料)

道路整備に関するアンケート調査

1 調査の概要

(1) 実施概要

①調査地域

調査地域は離島部も含む沖縄県全域とした。

②調査票配布

調査票は新聞折り込みにより不定期に配布している「うまんちゅの道」を利用し、平成17年2月20日(日)朝刊により配布された。「うまんちゅの道 2号」2005年2月

折り込み配布は沖縄タイムス、琉球新報、八重山毎日新聞、宮古毎日新聞、宮古新報、八重山日報の6紙を対象とし、配布総数は計477,717部となった。

③調査票回収方法

回収は調査票の一部を切り取りによる回収はがきの郵送回収(料金受取人払)により行われた。

④調査期間

調査期間は折り込み配布が行われた平成17年2月20日(日)より、同年3月11日(金)の20日間である。

(2) 回収結果

総回収数は2,191件(回収率:0.46%)となった。

生活圏別および市町村別の回収票数は以下の通りである。

表 5-1 アンケート回収結果

生活圏	回収数(比率)	市町村	回収数(比率)	市町村	回収数(比率)	市町村	回収数(比率)
那覇都市圏	1,164 (53.1%)	那覇市	602 (27.5%)	具志頭村	11 (0.5%)	本部町	25 (1.1%)
中南部生活圏	731 (33.4%)	宜野湾市	142 (6.5%)	玉城村	17 (0.8%)	恩納村	17 (0.8%)
北部生活圏	200 (9.1%)	浦添市	190 (8.7%)	知念村	9 (0.4%)	宜野座村	10 (0.5%)
宮古生活圏	40 (1.8%)	豊見城市	104 (4.7%)	佐敷町	23 (1.0%)	金武町	14 (0.6%)
石垣生活圏	54 (2.5%)	西原町	65 (3.0%)	与那原町	21 (1.0%)	伊江村	6 (0.3%)
不明	2 (0.1%)	南風原町	61 (2.8%)	大里村	18 (0.8%)	伊平屋村	2 (0.1%)
計	2,191 (100.0%)	石川市	30 (1.4%)	久米島町	0 (0.0%)	伊是名村	0 (0.0%)
		具志川市	95 (4.3%)	渡嘉敷村	0 (0.0%)	平良市	27 (1.2%)
		糸満市	86 (3.9%)	座間味村	0 (0.0%)	城辺町	5 (0.2%)
		沖縄市	197 (9.0%)	粟国村	0 (0.0%)	下地町	1 (0.0%)
		与那城町	4 (0.2%)	渡名喜村	0 (0.0%)	上野村	2 (0.1%)
		勝連町	13 (0.6%)	南大東村	1 (0.0%)	伊良部町	5 (0.2%)
		読谷村	64 (2.9%)	北大東村	0 (0.0%)	多良間村	0 (0.0%)
		嘉手納町	23 (1.0%)	名護市	98 (4.5%)	石垣市	42 (1.9%)
		北谷町	49 (2.2%)	国頭村	8 (0.4%)	竹富町	10 (0.5%)
		北中城村	24 (1.1%)	大宜味村	4 (0.2%)	与那国町	2 (0.1%)
		中城村	17 (0.8%)	東村	2 (0.1%)	不明	2 (0.1%)
		東風平町	29 (1.3%)	今帰仁村	14 (0.6%)	※赤字の市町村は回収なし	

2 調査結果

(1) 回答者属性

1) 地域

回収された 2,191 件のうち、那覇都市圏が 1,164 件となり半数以上を占めた。

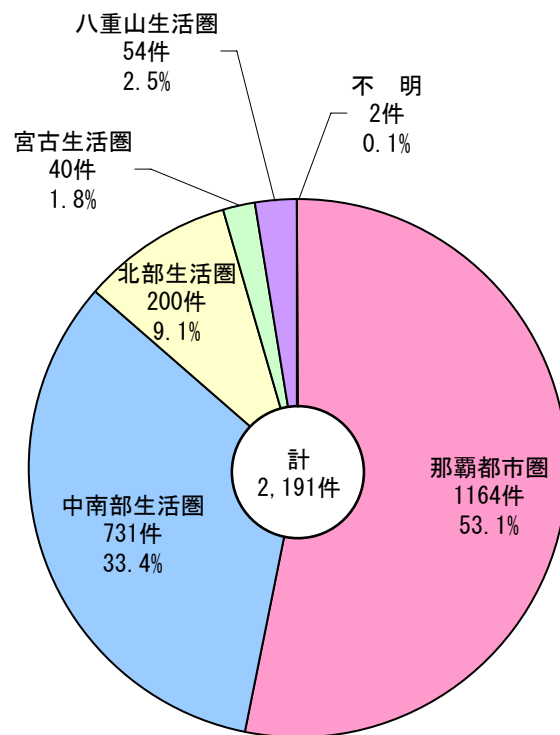


図 5-1 地域

表 5-2 地域区分

地域区分	市町村
那覇都市圏 (4市2町)	那覇市・宜野湾市・浦添市・豊見城市・西原町・南風原町
中南部生活圏 (4市8町13村)	石川市・具志川市・糸満市・沖縄市・与那城町・勝連町・読谷村・嘉手納町・北谷町・北中城村・中城村・東風平町・具志頭村・玉城村・知念村・佐敷町・与那原町・大里村・久米島町・渡嘉敷村・座間味村・粟国村・渡名喜村・南大東村・北大東村
北部生活圏 (1市2町9村)	名護市・国頭村・大宜味村・東村・今帰仁村・本部町・恩納村・宜野座村・金武町・伊江村・伊平屋村・伊是名村
宮古生活圏 (1市3町2村)	平良市・城辺町・下地町・上野村・伊良部町・多良間村
八重山生活圏 (1市2町)	石垣市・竹富町・与那国町

2) 性別

回答者の性別は男女ほぼ半々であるが、宮古生活圏では男性が6割とやや多い。

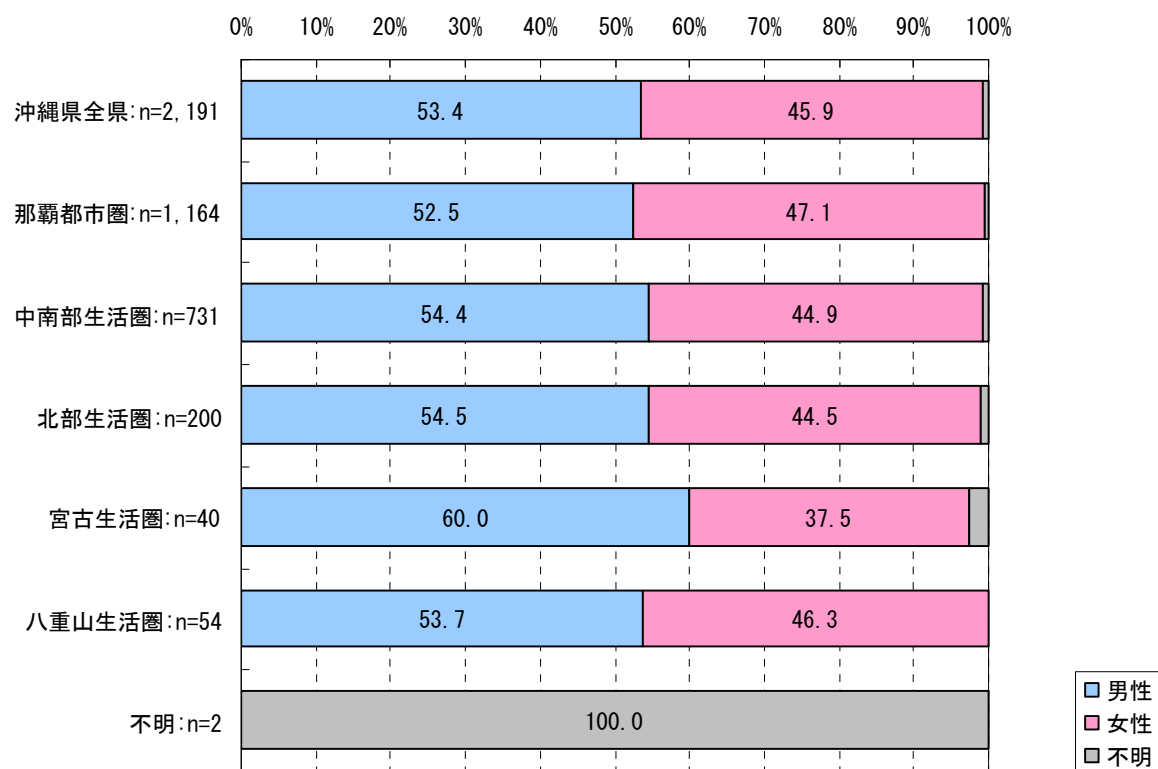


図 5-2 性別

3) 年齢

年齢構成では30才～59才までの年齢層が目立ち、全体の約67%を占める。

生活圏別ではややばらつきが見られ、那覇都市圏や中南部生活圏では20才代、30才代の比率が高くなっているのに対して、北部生活圏や宮古生活圏では60才代の回答が目立つ。

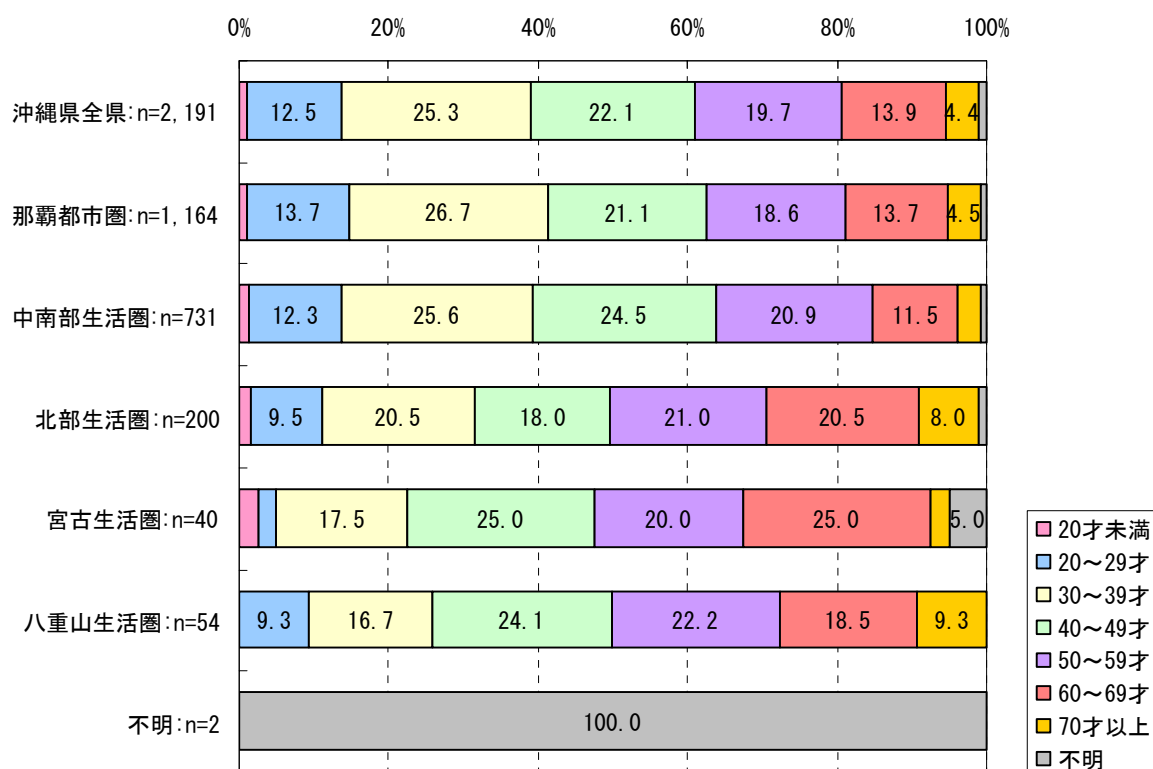


図 5-3 年齢

4) 道路の主な利用手段

道路の主な利用手段は沖縄県全体では約 85%が自動車と回答している。

生活圏別では、那覇都市圏と八重山生活圏で自動車の比率が比較的低く、バイクや徒歩、バスなどの利用者が若干見られる。

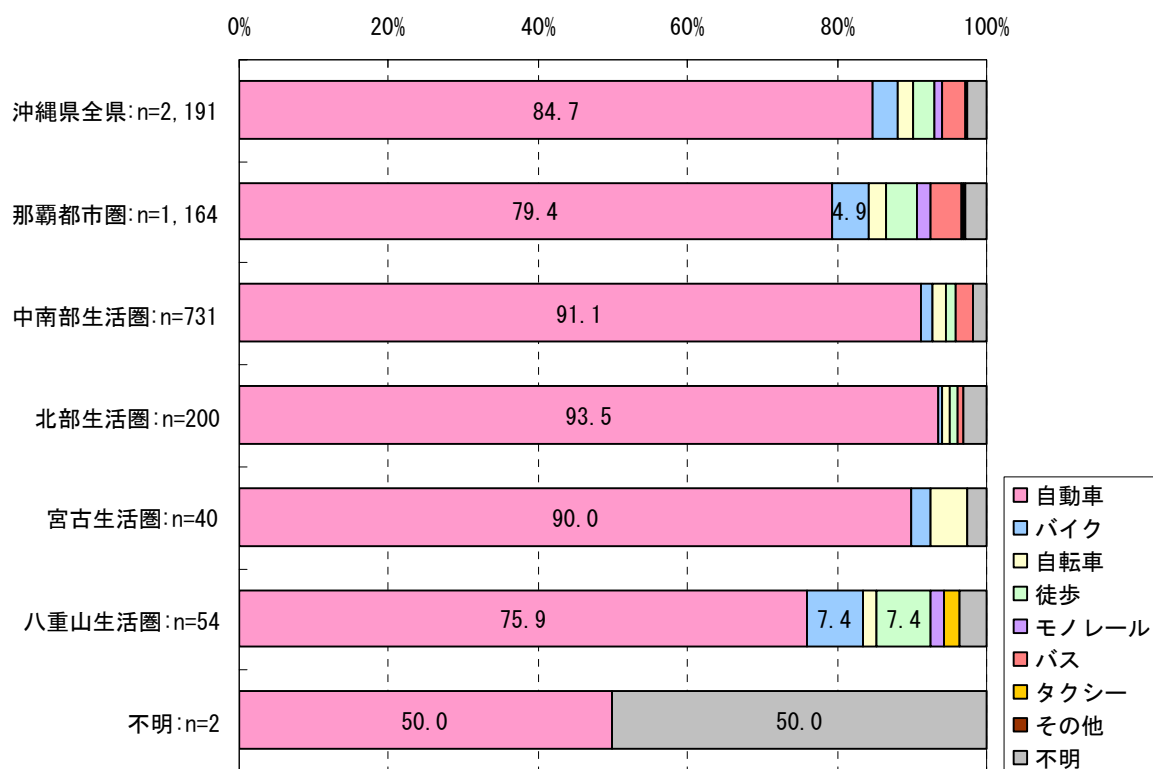


図 5-4 道路の主な利用手段

(2) 調査結果概要

1) 今後の道路整備の進め方

沖縄県全県では「予算を増やして積極的に進める」「現在の予算額ぐらいで同じように進める」「予算を縮小して進める」がほぼ3割ずつを占め、意見が分かれる結果となった。

宮古生活圏ではやや特異な傾向を示しており、「予算を増やして積極的に進める」が4割以上と他の生活圏を上回っている一方で、「道路整備はもう要らない」とする意見も約15%を占めており、極端な意見の分化が見られる。

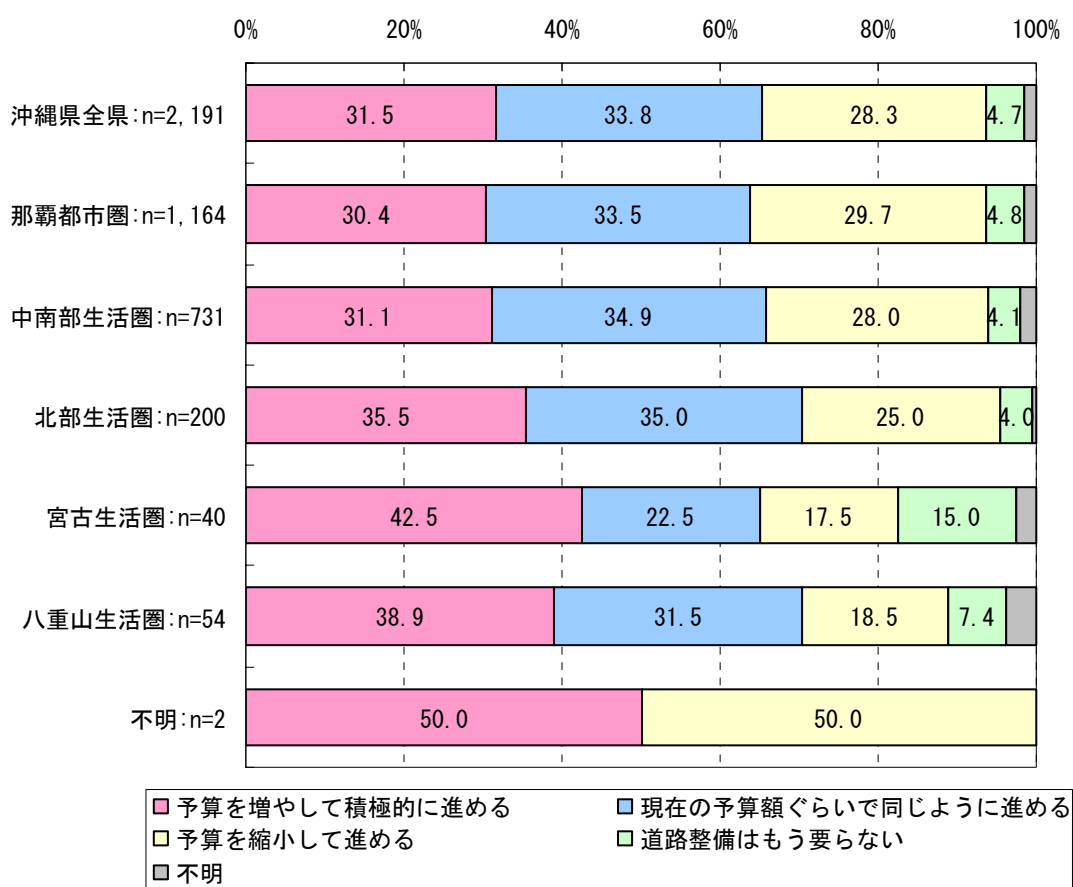


図 5-5 今後の道路整備の進め方

2) ETCの利用状況等

①高速道路の利用頻度

沖縄本島内の生活圏では概ね類似した傾向となっているが、北部生活圏で「滅多に使わない」とする回答が本島内他生活圏の半分程度となっており、利用頻度がやや高い傾向が見られる。

居住市町村内の高速道路ICの有無は高速道路の利用頻度にはそれほど影響を与えていないと考えられる。

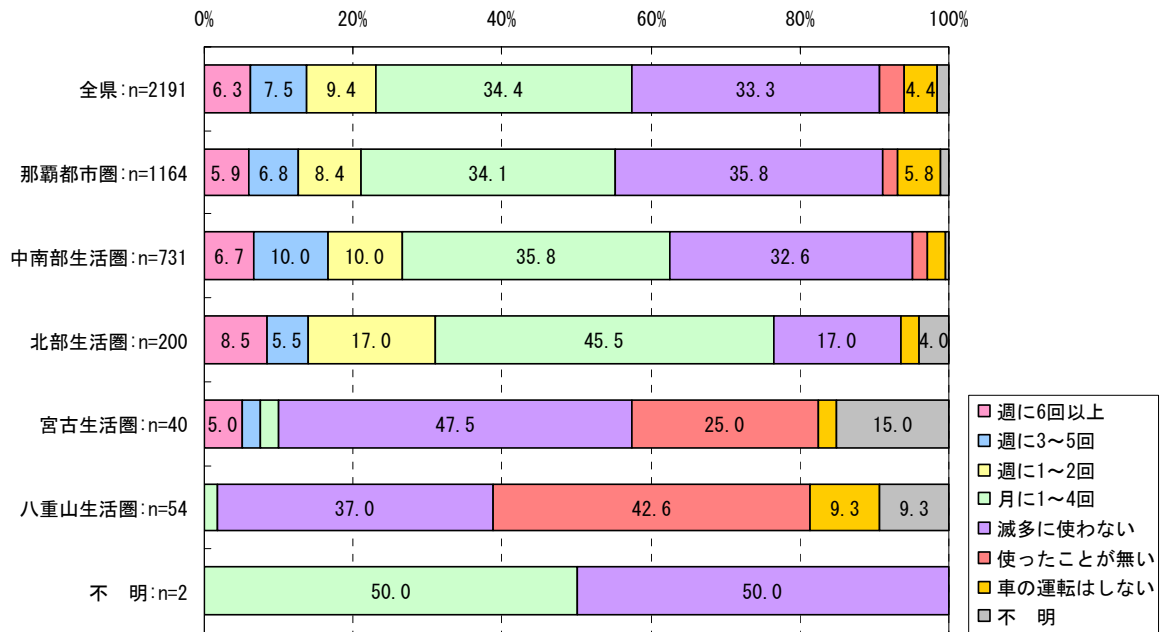


図 5-6 高速道路の利用頻度（生活圏別）

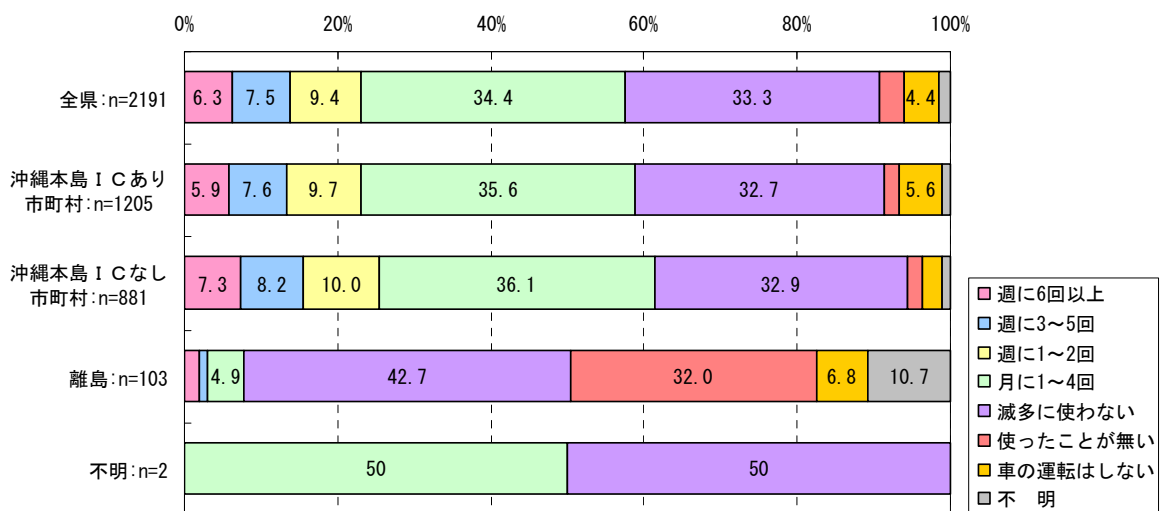


図 5-7 高速道路の利用頻度（IC有無別）

② E T C についての認知度

沖縄本島では8割以上がE T Cについて「以前から知っていた」と回答している。

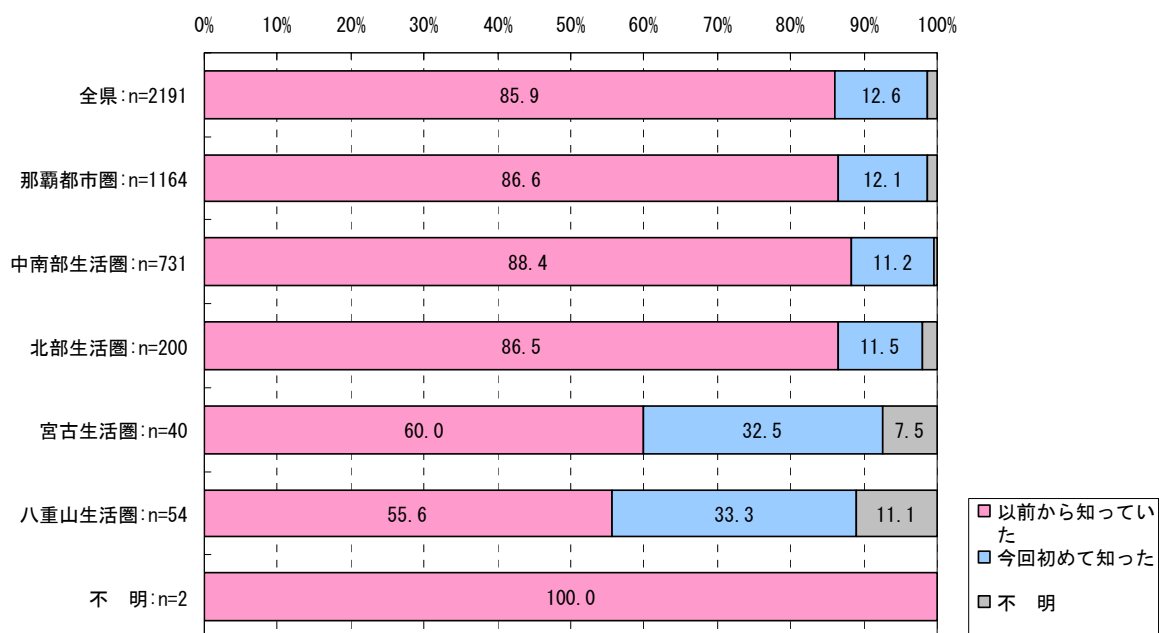


図 5-8 E T C についての認知度 (生活圏別)

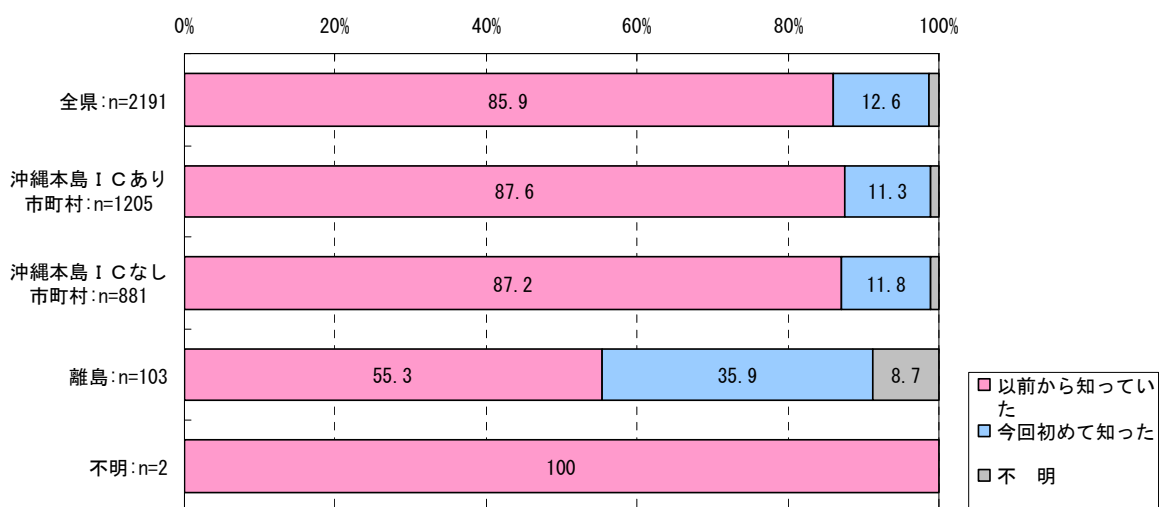


図 5-9 E T C についての認知度 (I C 有無別)

高速道路を使ったことがない、あるいは車の運転をしない回答者ではE T Cを「以前から知っていた」とする回答者は5割程度となっているが、それ以外では高速道路の利用頻度に関わらず9割前後が「以前から知っていた」と回答している。

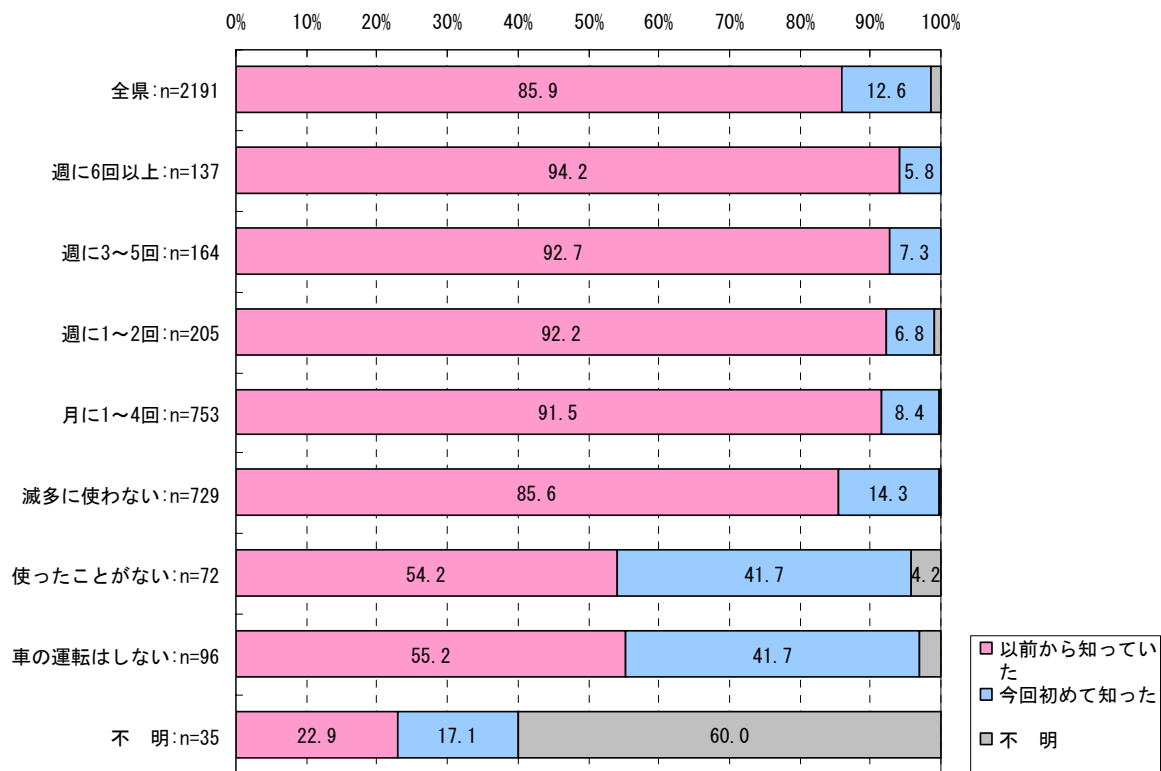


図 5-10 E T C についての認知度 (高速道路利用頻度別)

③ E T C車通勤割引の認知度

E T C車の通勤割引について「以前から知っていた」とする回答者は、沖縄本島内で2割前後、宮古・八重山生活圏では15%前後となっており、大部分の回答者は「今回初めて知った」としている。

高速道路 I Cがある市町村内に居住している回答者では、それ以外の市町村居住者に比べて、通勤割引について「以前から知っていた」とする比率がやや高い。

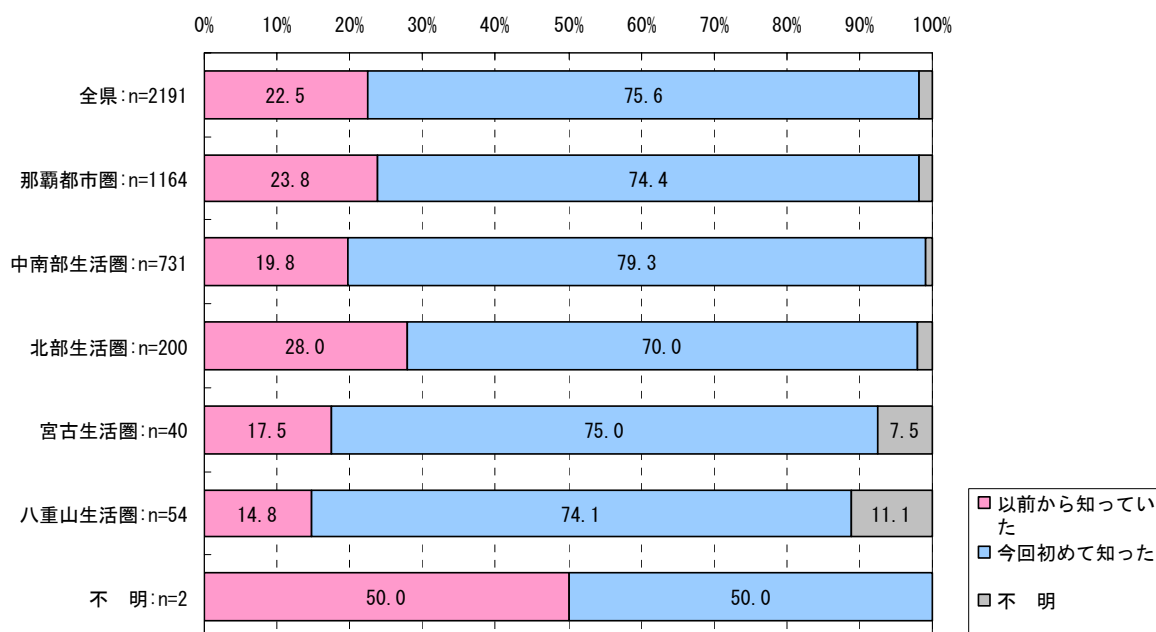


図 5-11 E T C車通勤割引の認知度（生活圏別）

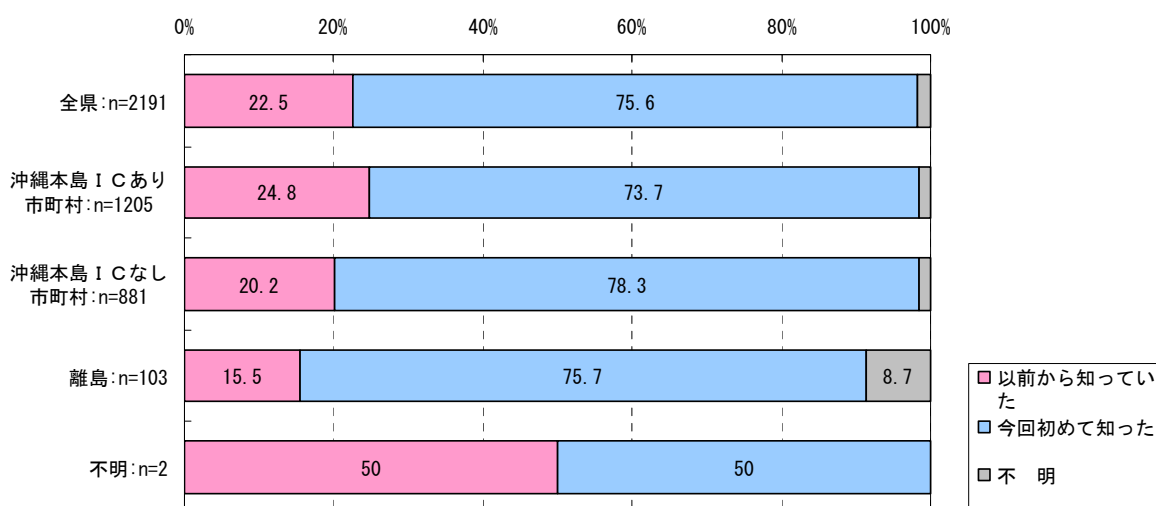


図 5-12 E T C車通勤割引の認知度（I C 有無別）

ほぼ毎日高速道路を利用している回答者では「以前から知っていた」とする比率が5割を超えており、利用頻度が低くなるにつれて通勤割引に対する認知度が低下する傾向が見られる。

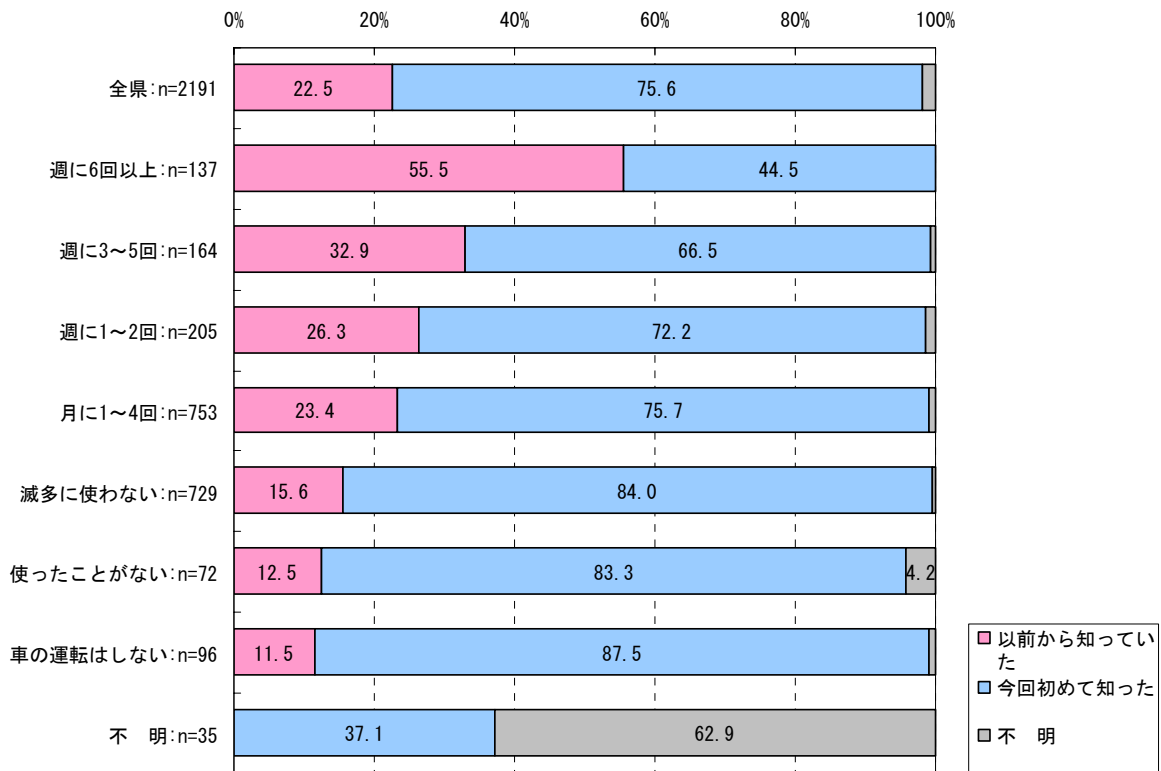


図 5-13 ETC車通勤割引の認知度（高速道路利用頻度別）

④ ETCの設置状況

沖縄県全県では「設置済み」とした回答者は約5%、「今は設置していないが今後早めに設置したい」も約7%にとどまっており、「今は設置していないがいずれ時期を見て設置したい」とする回答を含めてもETCの設置意向は5割に満たない。

生活圏別では北部生活圏で「今は設置していない。今後も設置するつもりは無い」とする回答が他の生活圏に比べて1割程度低く、ETCの設置に比較的前向きな傾向が見られる。

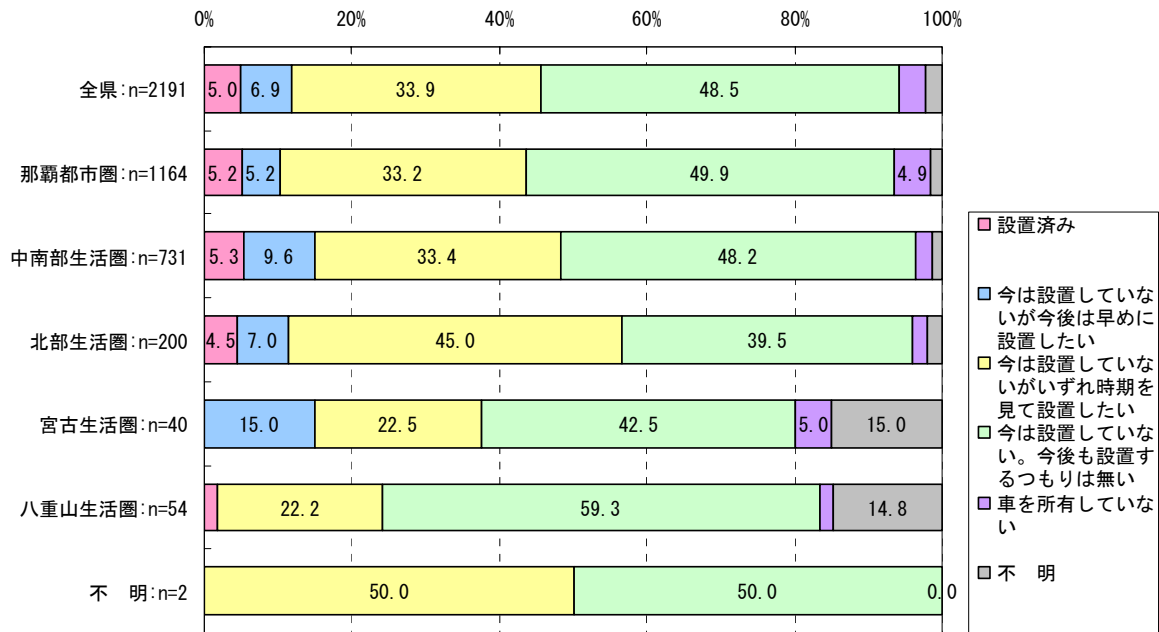


図 5-14 ETCの設置状況（生活圏別）

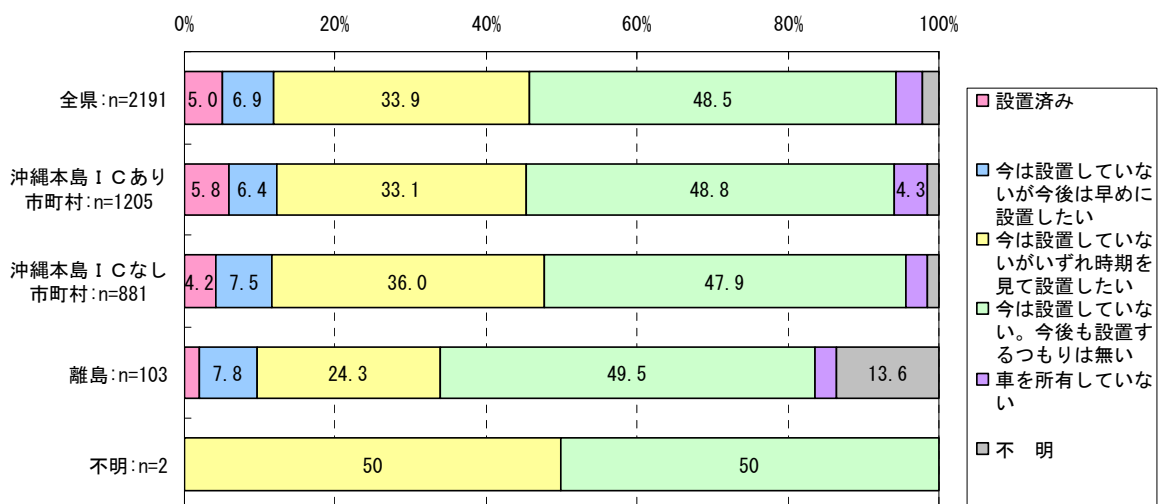


図 5-15 ETCの設置状況（IC有無別）

高速道路をほぼ毎日利用する回答者の約3割は既にETCを設置しており、加えて約5割が「今は設置していないが今後早めに設置したい」「今は設置していないがいずれ時期を見て設置したい」と回答している。

高速道路の利用頻度が低下するにつれ、「設置済み」や「今は設置していないが今後早めに設置したい」とする回答の比率が低下するが、利用頻度が週1~2回まででは「今は設置していないがいずれ時期を見て設置したい」とする回答が増加し、ETCの設置に前向きな回答者の比率はそれほど変わらない。

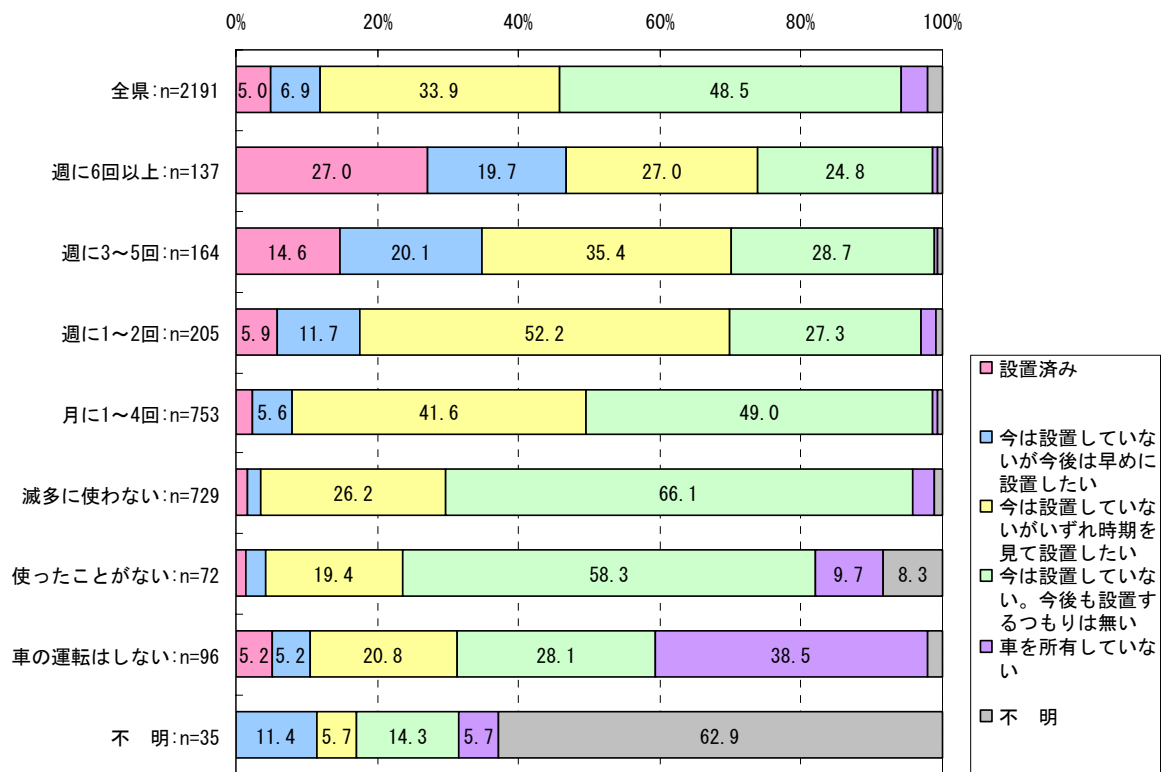


図 5-16 ETCの設置状況（高速道路利用頻度別）

⑤ E T Cを設置しない理由

E T Cを「今は設置していない。今後も設置するつもりは無い」とした回答者のうち、約 6 割はその理由として「高速道路の利用頻度が少ないから」としており、「E T C車載器の金額が高いから」についても約 3 割が理由としてあげている。

生活圏別では北部生活圏で「高速道路の通行料金が低い（割引率が低い）から」という指摘が約 14%見られ、本島内の他生活圏とやや異なる傾向が見られた。

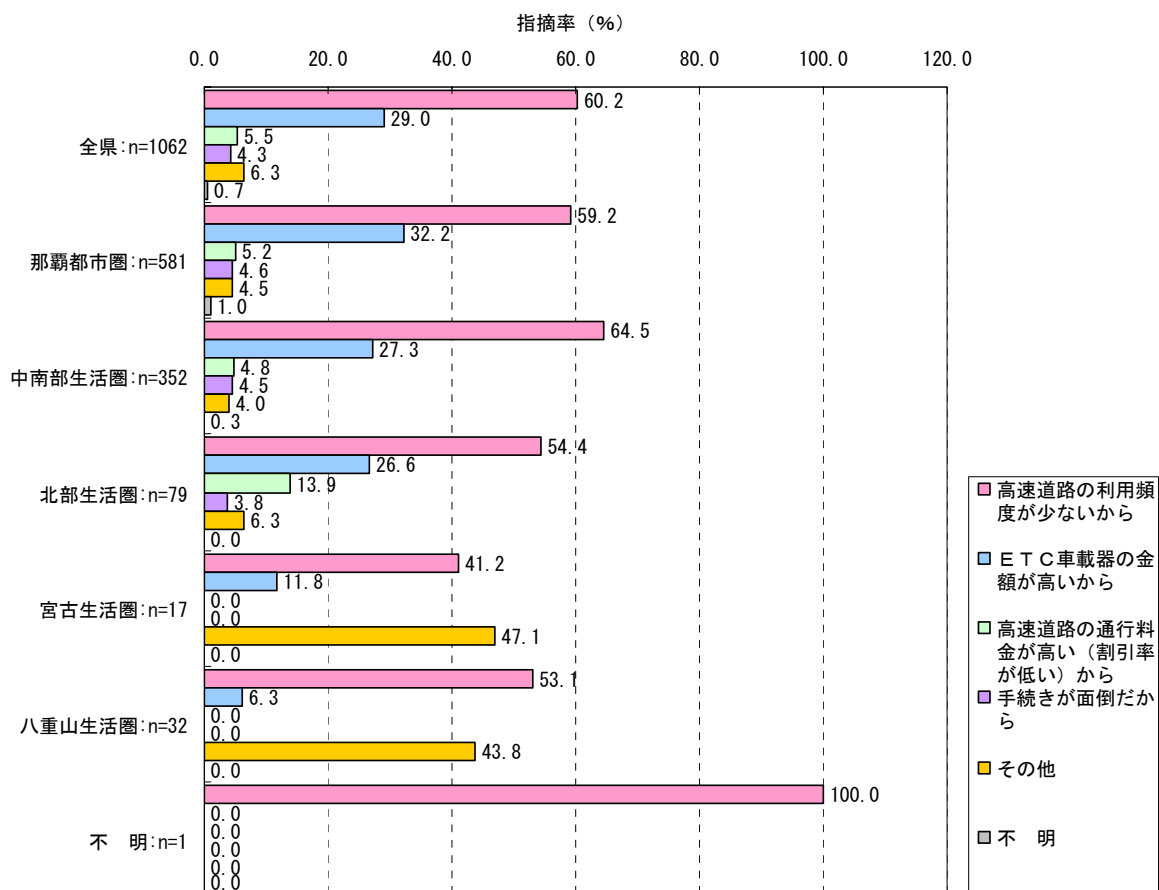


図 5-17 E T Cを設置しない理由 (生活圏別)

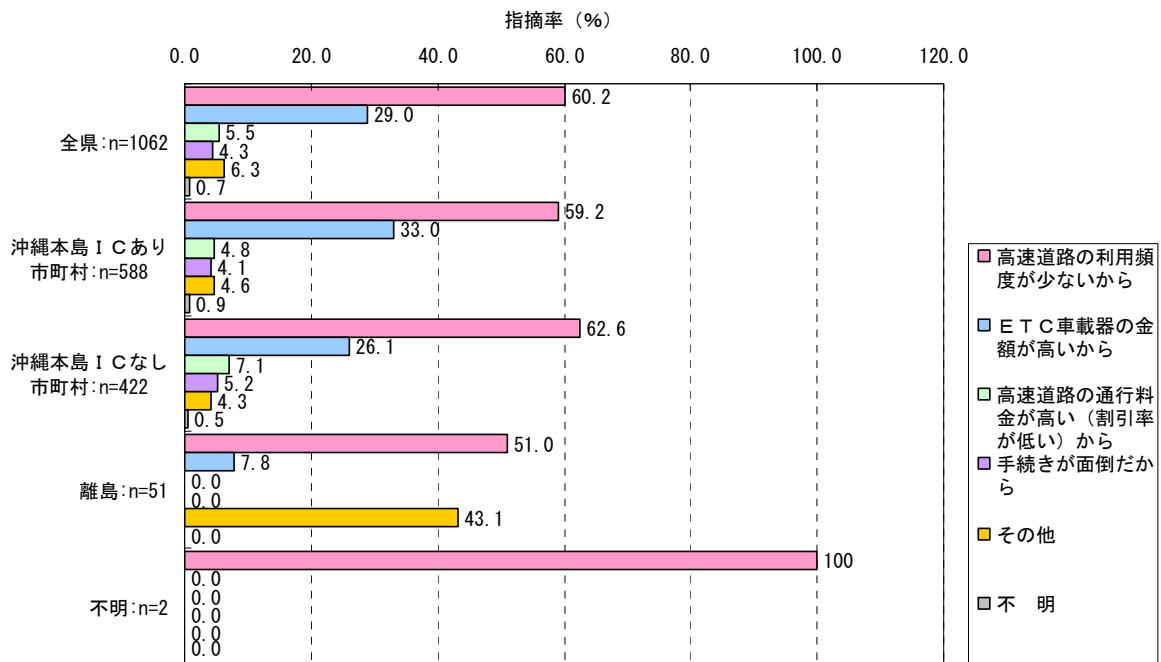


図 5-18 ETCを設置しない理由 (IC有無別)

週に1~2回以上高速道路を利用する回答者ではE T Cを設置しない理由として6割前後が「E T C車載器の金額が高いから」としており、他の理由を大きく上回っている。

高速道路の利用頻度がそれ以下の回答者では「高速道路の利用頻度が少ないから」が突出している。

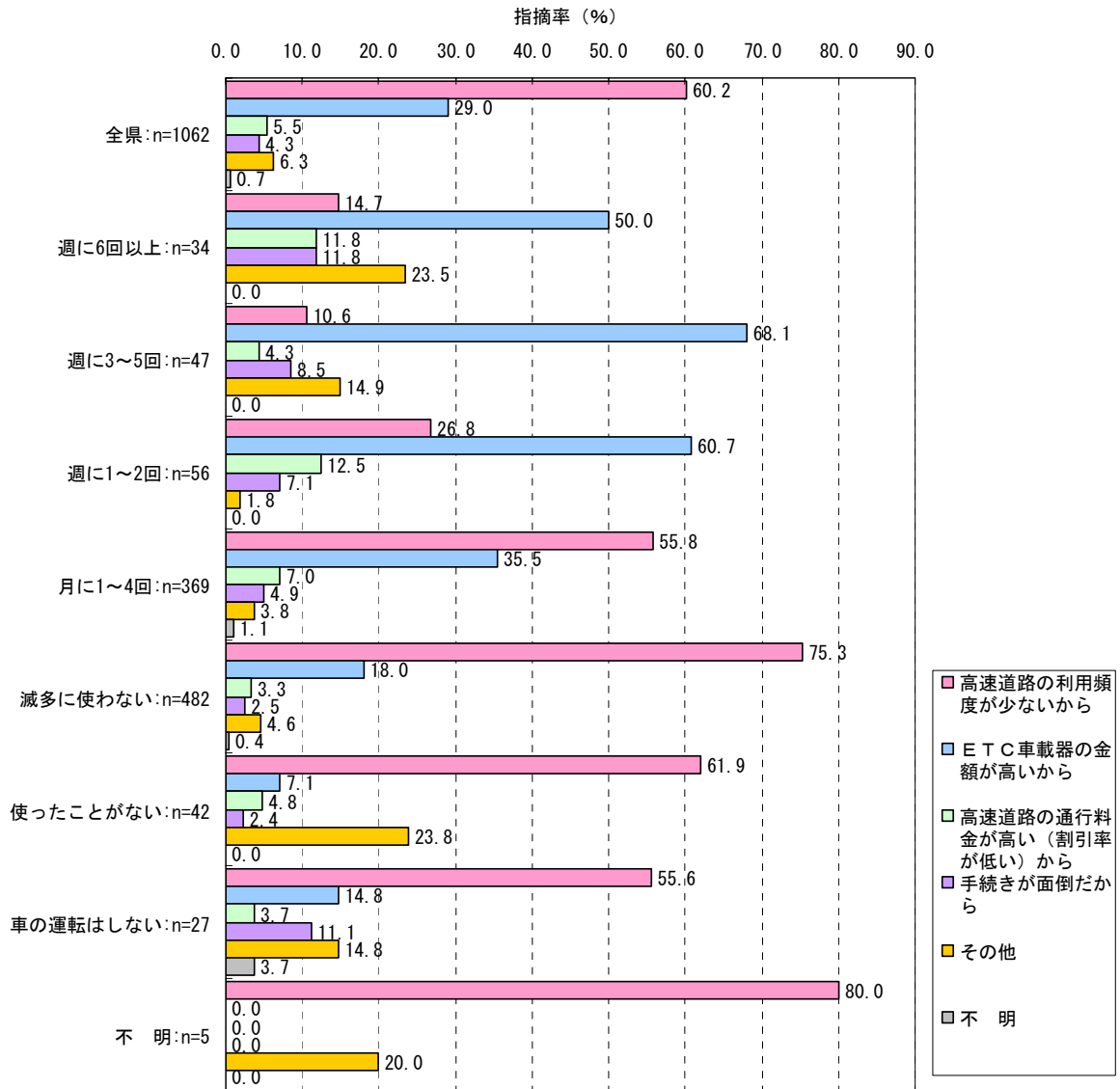


図 5-19 E T Cを設置しない理由 (高速道路利用頻度別)

⑥沖縄自動車道へのIC増設の必要性

沖縄県全県では約41%がIC増設についてと回答しており、とする回答を上回っている。

生活圏別では那覇都市圏、北部生活圏では全県と類似した傾向を示しているのに対して、中南部生活圏では「ぜひ進めるべき」とする回答が「今のままで不便・必要性を感じない」を上回っている。

また、ICが設置されていない市町村内に居住する回答者では「ぜひ進めるべき」とする回答の比率が若干多くなっている。

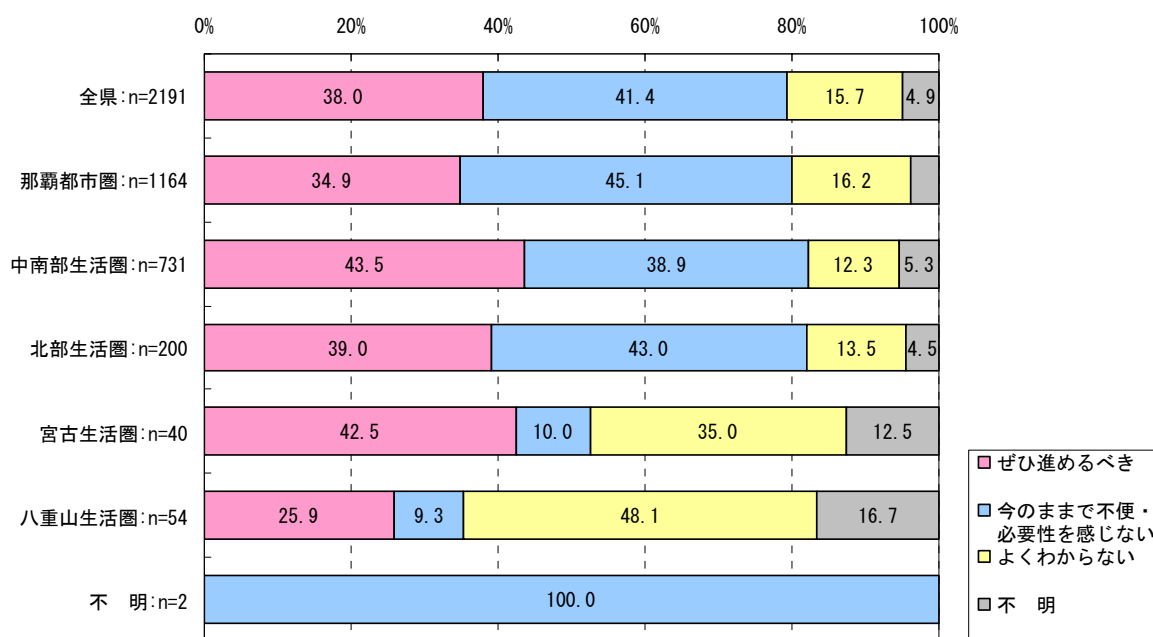


図 5-20 IC増設の必要性 (生活圏別)

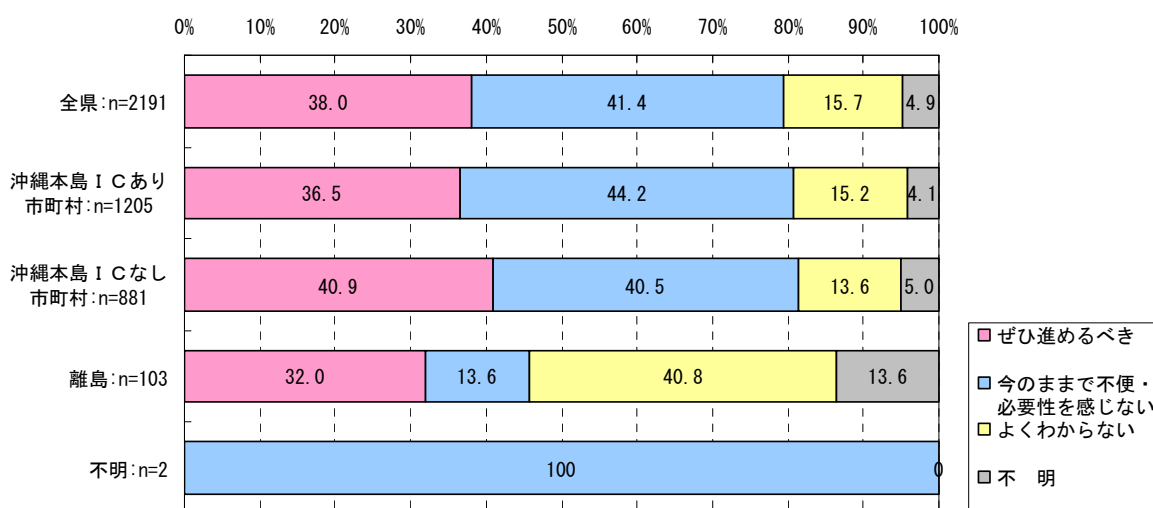


図 5-21 IC増設の必要性 (IC有無別)

高速道路の利用頻度が高い回答者ほど、I C増設を「ぜひ進めるべき」とする回答の比率が高くなり、ほぼ毎日高速道路を利用する回答者では5割以上が「ぜひ進めるべき」としている。

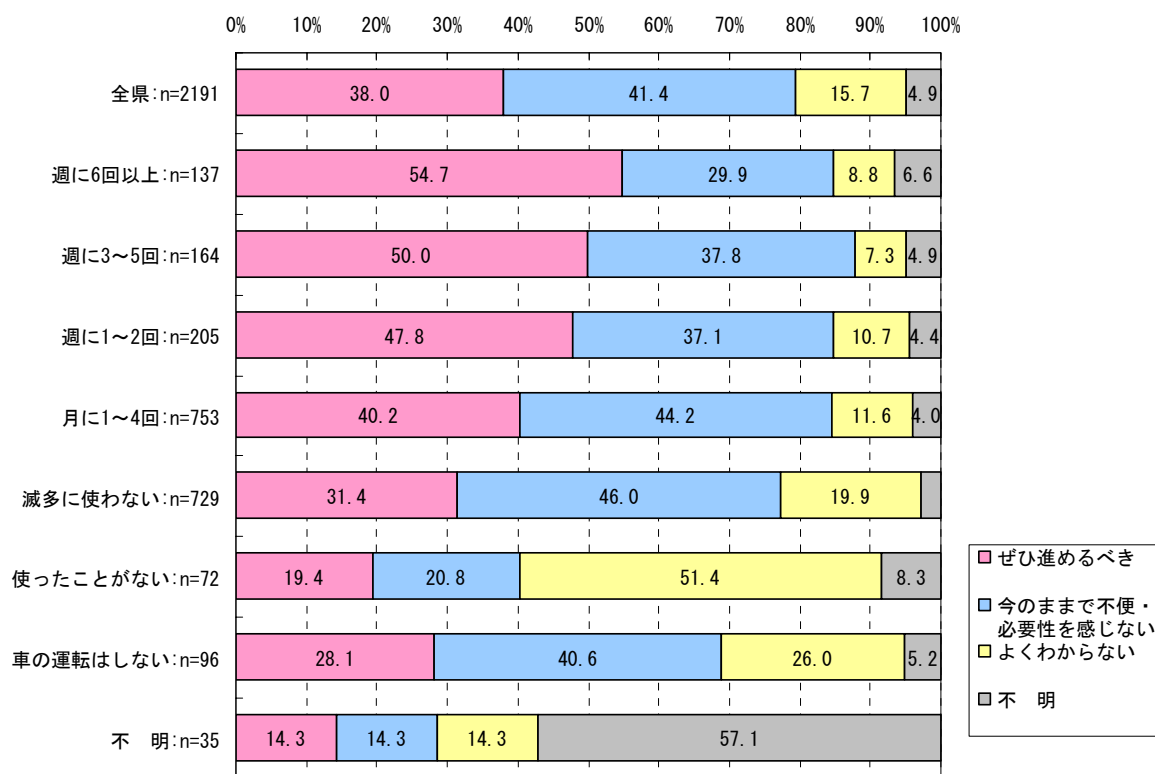


図 5-22 I C増設の必要性 (高速道路利用頻度別)

3) 満足度調査等の結果

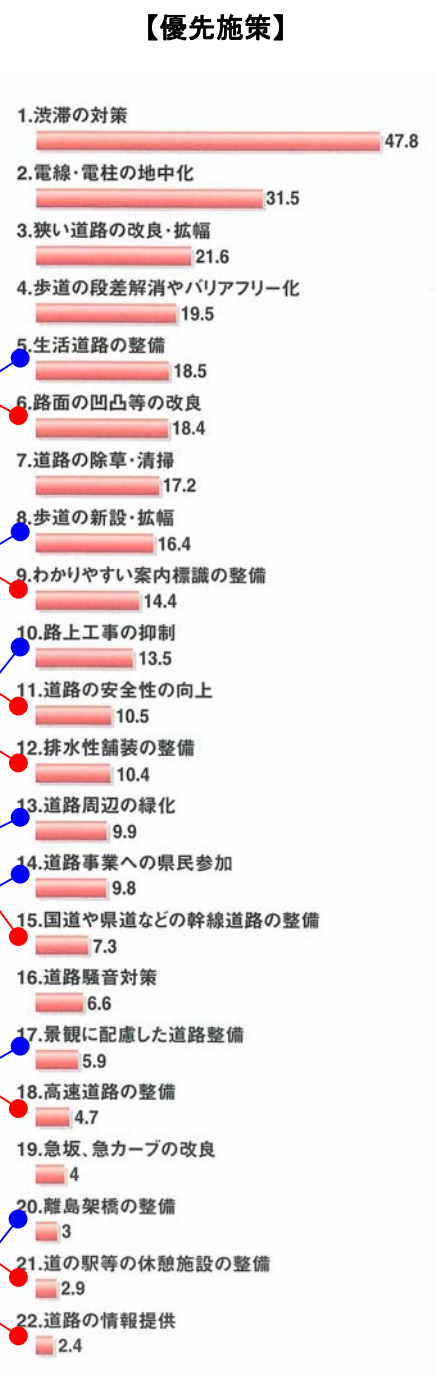
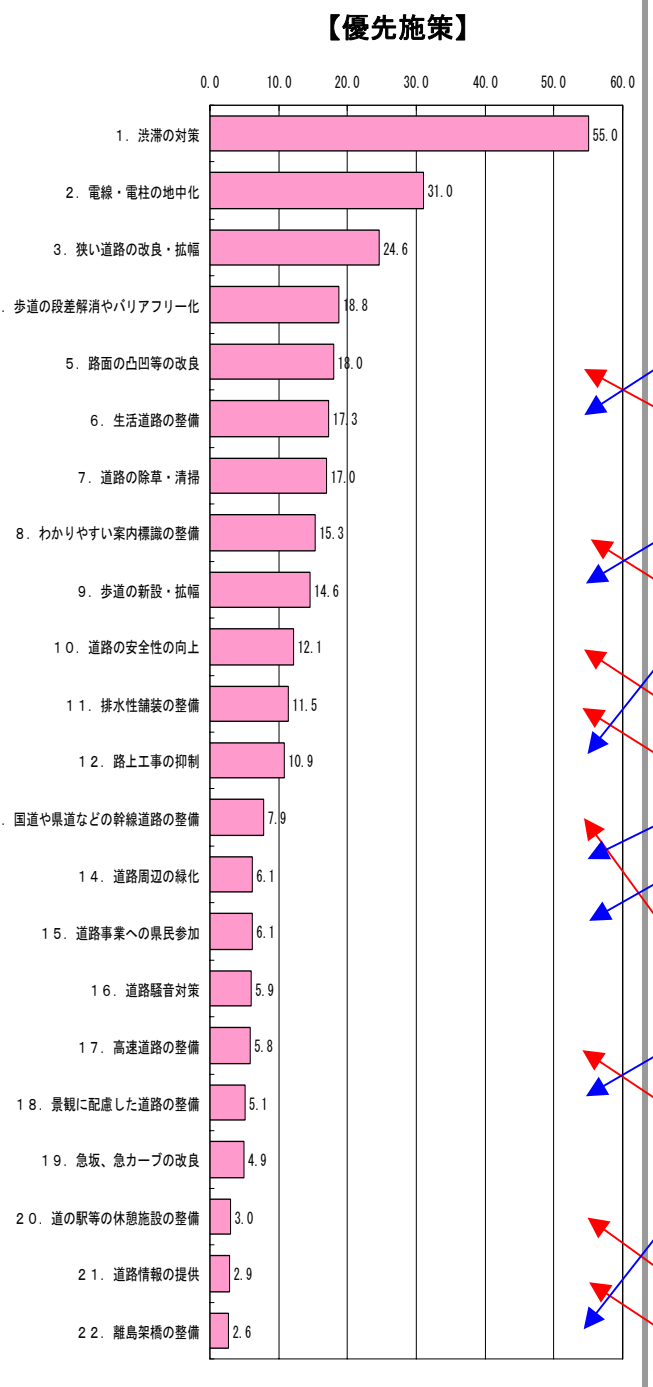
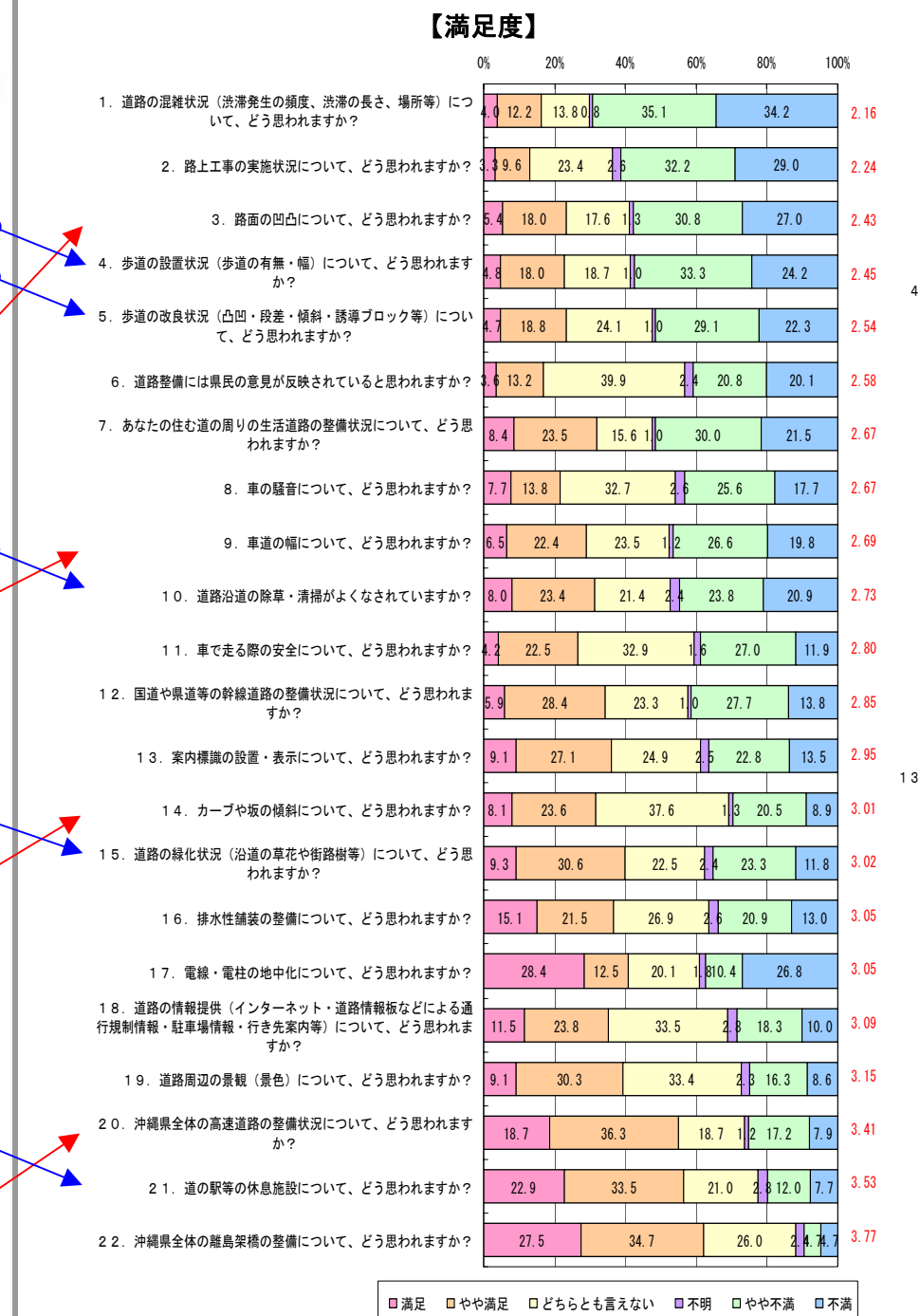
「現在の道路に対する満足度」および「今後の道路事業（施策）の優先順位」について、昨年度調査との比較分析を行った。

① 沖縄県全県

昨年度調査結果：n=5, 113

今年度調査結果：n=2, 191

昨年度調査結果：n=5, 113



【凡 例】

●→	満足度順位が向上した項目 優先施策の指摘率順位が下がった項目
●→	満足度順位が悪化した項目 優先施策の指摘率順位が上がった項目